

ケニアSATREPS稲作研究プロジェクト終了時評価の実施

2018年3月12日～20日と4月9日～18日の2回に分けて、JST・JICA地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (SATREPS) による「テーラーメイド育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト」の終了時評価が行われました。JICA、JST、ケニア農業灌漑省、ケニア農畜産業研究機構による合同調査の結果、プロジェクトによって整備されたケニア随一の研究施設および実験圃場、DNAマーカー選抜育種によって作出されたケニアの環境に適した育種素材、品種の能力を最大限に活かすための栽培管理の解析、研究人材の育成などについて高い評価をいただきました。ケニア農業灌漑省はプロジェクトに貢献した若手の非常勤研究員の常勤化を進め、ケニア農畜産業研究機構ムエア支所の施設の更なる充実、積極的に稲研究を支援することを打ち出しました。アフリカにおけるコメ増産の必要性はますます高まっており、今後、本プロジェクトの成果を活用し、さらに発展させていくことが期待されています。(横原大悟)



プロジェクトのメンバーおよび合同評価チーム

JSPS研究拠点形成事業(アジア・アフリカ学術基盤形成型)に採択

農国センターおよび協力機関は、これまでに様々なサポートを受け、イネ品種の特性評価とイネの交配を大量に行うための施設・設備をケニア農畜産業研究機構ムエア支所に構築し運用するとともに現地環境ストレスに強い遺伝子を持つ有望イネ系統をDNAマーカー利用により開発してきました。これまでの研究成果を活用し、アフリカにおける稲作生産性の向上に継続して取り組むため、平成30年度JSPS研究拠点形成事業(アジア・アフリカ学術基盤形成型)に「アフリカ稲作研究イノベーションのための研究拠点と国際協働ネットワークの構築」を提案し、採択に至りました。本プロジェクトでは、イネ育種と栽培技術開発のための施設・設備と有望イネ系統を有するケニア農畜産業研究機構ムエア支所を日本のアフリカにおけるイネ研究の拠点として機能させるとともに、国際稲研究所およびアフリカ稲センターとの連携による国際協働のためのネットワークを構築することを目指しています。また、イネ研究の将来を担う若手人材の育成にも積極的に取り組む予定です。(横原大悟)

2017年度国別研修 食料安全保障のための農学ネットワーク協力(JICA-JISNAS/Agri-Net)「気候変動に対応した栽培技術アップグレード研修」の実施

2月27日～3月8日に、JICA中部と農学知的支援ネットワーク(JISNAS)会員大学の協力により、標記研修をAgri-Net試行2として実施しました。気候変動、温暖化、塩害などの諸問題に対して、作物生産の安定化と維持向上を目指し、栽培技術の改善等に関する研究力を高めることを目標に、6ヶ国より来日した9名が各国の課題の把握と解決に向けた研究アプローチについて研修に励みました。(江原 宏)



JICA中部での修了式

参加国：タイ、ラオス、カンボジア、ケニア、フィリピン、ベトナム
協力大学：山形大学農学部、茨城大学農学部、宮崎大学農学部、鹿児島大学農学部、
名古屋大学大学院生命農学研究科